

保育者養成校における地域連携授業の成果と課題

—小学校教員と児童の授業評価に基づく検討—

Achievements and Tasks of Community Collaboration Classes at a Preschool-Teacher Training School
—An Analysis Based on Class Evaluations by Elementary School Teachers and Students—

金子 智 昭
(こども学科 助教)

要旨

本研究の目的は、保育者養成校における小学校との地域連携授業に焦点化し、小学校教員と児童の授業評価アンケートの分析を通して、地域連携授業の成果と今後の課題を検討することであった。授業に参加した教員12名ならびに1年生児童135名に対して質問紙調査を実施した。教員と児童の授業評価の量的分析と自由記述に基づく質的分析から、地域連携授業は大学生のみならず、小学校教員や児童の学びにも繋がることが示され、相互互恵的な成果をもたらす可能性が示唆された。さらに、地域連携授業の有効な実施方法や今後の展望などについて考察された。

【キーワード：地域連携授業 小学校教員 児童（1年生） 授業評価 保育者養成校】

I. 問題と目的

1. 地域連携授業の定義と特色

近年、大学は地域や社会の知の拠点として、地域と協働する「開かれた大学づくり」が求められている（文科省、2016）¹⁾。本研究対象の保育者養成であるS短期大学においても、大学と教育委員会が協力し、地域資源を活用した様々な教育活動を展開することで、開かれた大学づくりを目指している。具体的な教育活動の一例として、近隣の地域住民に対する公開講座、高校生が大学の授業を模擬体験する高大連携授業、学内の子ども支援センターを活用した子育て支援、大学教員の小中高等学校への巡回相談、などが挙げられる。

本研究で取り上げる「地域連携授業」とは、こうした大学が実践する地域との結びつきを大切にした教育活動の一環であり、「保育者養成校が近隣の小学校、幼稚園、保育所などの教育・福祉機関と協力し、保育学生が乳幼児や児童など低年齢の子どもたちとの交流活動を通じて、保育者としての基礎的な資質を育むことを目指した授業」と定義する。

地域連携授業は、実際に幼児や児童など低年齢の子どもを相手とすることから、保育学生が講義

で学んだ知識と技術を体験を通して統合的に獲得していく貴重な学習機会であり、保育者としての資質向上が大いに期待される。また、保育者養成課程における通常の実習（幼稚園実習、保育所実習、施設実習）は、幼稚園免許状や保育士資格の取得に必要な科目であるため教育内容の構成度が高いことに比べて、地域連携授業は大学や地域独自の特色を活かしたカリキュラムとして構成しやすいため、教育内容の自由度が高いという点で両者に相違があると考えられる。

2. 乳幼児との地域連携授業に関する先行研究

保育学生が乳幼児と交流する形での地域連携授業は、併設園を持つ保育者養成校もあることから、いくつかの養成校で実施されている。実際、保育実習および保育実習指導の開講および履修状況に関する全国的調査によると（全国保育士養成協議会、2015）²⁾、保育者養成校の64.0%が保育実習に先立つ体験的学習（見学、観察、ボランティアなど）を取り入れており、乳幼児との交流に力点を置いた教育プログラムが組まれていることが示唆されている。

その教育効果に関する研究として、例えば湯地（2016）³⁾は、幼児教育課程論の授業内で、学生が

大学近隣の幼稚園の保育実践に主体的に参画することで、保育実践力（人間性、協働力、基本的態度、など）を獲得していくことをテキストマイニング分析から明らかにしている。また、学内での乳児と触れ合い経験（木村・塩路・佐々木・藤原・谷村・浜崎・田村・松崎，2013）⁴⁾や、学内の子育て支援のオープンスペースで乳幼児と関わる経験（萩尾・池田・椎山，2011）⁵⁾を通して、学生が保育実践力を獲得していくことも報告されている。さらに、古屋・田中（2018）⁶⁾は、学生自身が制作した遊具を組み合わせることで保育環境を構成し、その後、実際の乳幼児を相手に実践を行うプレイルームマネジメントという授業実践を報告し、学生は一連の取り組みを通して、保育室の環境構成やリーダーシップなどの保育実践力を獲得できることが示されている。さらに、入学間もない時期の乳幼児との関わり体験が、学生の保育者効力感を高めることも示されている（龍・河野・小川内，2011）⁷⁾。

以上のように、乳幼児との地域連携授業は、保育学生の資質や力量を育むうえで、有効であることが明らかとなっている。

3. 児童との地域連携授業に関する先行研究

昨今、小1プロブレムの問題や幼保小連携の必要性が叫ばれており、小学校生活への移行を視野に入れた幼児教育の展開が求められている。さらに、平成29年度告示の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、新たに「幼児期までに育ってほしい姿」が示されたことに伴い、幼児教育と小学校教育の接続への要請が社会的に強まっている（西岡，2018）⁸⁾。周知のとおり、幼児の自発的な活動を重視する幼児教育は、教授的側面や構成度が強い学齢期以降の教育と一線を画している。保育学生は小学生との地域連携授業を通して、幼児期から児童期までの子どもの発達を体験的に理解し、小学校教育のあり様を身近に感じて学びとることができると考えられる。このような小学校教育との接続の観点から、保育者養成校における児童との地域連携授業の教育効果が検討されている。

例えば、金子（2019）⁹⁾は、学生の自由記述の分析から、小学校との地域連携授業から得られる教育効果として、10個のカテゴリー（発言・指示、対応、コミュニケーション、自信、子どもの発達

差の理解、発達障害児への理解と対応、子どもイメージの変容、子どもとの心の交流、キャリア形成、机上の学習内容の理解）を見出している。特に「子どもの発達差の理解」（例：幼児と小学生の違いが分かった）は、幼児ではなく児童を対象とした地域連携授業で得られる特徴的な学びであると述べられている（金子，2019）¹⁰⁾。また金子（2019）¹¹⁾は、役割付与や事前の準備学習が学生の授業への自己関与を高め、省察や自己認識の変容を導くことを示しており、地域連携授業の有効な実施方法についても考察されている。さらに金子（2018）¹²⁾は、学生の授業実施前の保育者効力感、地域連携授業後の学習効果（保育者としての力量、保育職への志望度など）を高める動機づけ要因であることも明らかにしている。

これらの結果から、乳幼児のみならず児童を対象とした場合においても、地域連携授業の教育的意義が支持されている。

4. 地域連携授業の課題と本研究の目的

これまでの地域連携授業に関する先行研究は、先に述べてきた通り、保育学生を対象に調査が実施されている。しかしながら、大学主体の地域連携授業に参加する「保育者・小学校教員」や「子ども」（乳幼児、児童）を対象とした研究は、充分に行われているとは言えない。保育者・小学校教員や子ども（たち）は、地域連携授業をどのように受け止めて、評価しているのだろうか。保育・教育機関との協働なくして成立し得ない地域連携授業の特色を踏まえると、保育学生のみならず、保育者・小学校教員や子ども（たち）側の意識や要望も取り入れながら、授業内容や実施方法を改良していく必要があると考えられる。

本研究はその一助として、筆者が所属するS短期大学における小学校との地域連携授業に焦点化し、小学校教員と児童の授業評価アンケートの分析を通して、地域連携授業の成果や今後の課題を検討することを目的とする。

II. 方法

1. 調査時期・対象者

埼玉県内の保育者養成系のS短期大学において、平成30年10月上旬から平成31年の1月下旬に

かけて、小学1・2年生との地域連携授業が6回実施された（Table1）。また、地域連携授業は筆者と他の教員1名が担当する幼児教育者論（1年生履修科目）の授業の一環として実施された。

調査対象者は、計6回の授業のうち、第1回（シャボン玉作りを通した科学の授業）、第3回（ipadの写真撮影を通した情報の授業）、第4回（相撲の制作と遊びを通した国技の授業）、第6回（ぶんぶんごまの制作を通した昔あそびの授業）、の各授業に参加した小学校教員12名（性別：男性2名、女性10名／役職：管理職3名、担任6名、養護教諭1名、支援員2名／教職歴：平均19.3年

（SD=11.5年）と1年生児童135名（男児：63名、女児72名）を対象とした。

質問紙は、「小学校教員用授業評価アンケート」と「児童用授業評価アンケート」の2つに分かれている。地域連携授業が実施される約1週間前の事前打ち合わせの際に、担任へ向けて調査目的と個人情報の保護などに関して説明を行い、調査参加への同意を得た。質問紙は授業後に担任へ渡し、後日、郵送にてS短期大学へ送って頂くように依頼した。

回収された質問紙の回答に大きな不備が見られなかったため、以降、全てのサンプルを分析対象とした。

Table1 2018年度 S短期大学の小学校との地域連携授業の実施状況

授業	日時	小学校・学年	合同授業の内容
第1回	10月上旬	公立A・B小学校（1年生）	シャボン玉作りを通した科学の授業
第2回	10月下旬	公立C小学校（2年生）	ipadの写真撮影を通した情報の授業
第3回	11月上旬	公立D小学校（1年生）	ipadの写真撮影を通した情報の授業
第4回	11月下旬	公立E小学校（1年生）	相撲の制作と遊びを通した国技の授業
第5回	12月上旬	公立C小学校（1年生）	相撲の制作と遊びを通した国技の授業
第6回	1月下旬	公立D小学校（1年生）	ぶんぶんごまの制作を通した昔あそびの授業

注：本研究の調査対象者は、第1・3・4・6回の授業に参加した小学校教員および児童である。

2. 本研究における地域連携授業の概要

授業は大学に児童を迎え入れた後に大学校内で行われ、およそ午前10時30分から午後13時30分までの約3時間行われる。大まかなスケジュールは、「開会式」（10時30分）、「合同授業」（11時00分～12時00分）、「給食」（12時00分～12時30分）、「大学散策」（12時30分～13時00分）、「閉会式」（13時00分～13時30分）である。また開会式から閉会式まで、大学生約5名と児童約5名から構成されるグループで活動を行う。

合同授業の内容として、第1回のテーマは「シャボン玉作りを通した科学の授業」である（Figure1）。シャボン玉の仕組みや歴史についてクイズやビデオ映像を通して学んだ後、身近な材料（食器用洗剤、洗濯のり、アルミホイルなど）を用いて、シャボ

ン玉あそびや大きなシャボン玉作りの実験を行った。第2・3回は「ipadの写真撮影を通した情報の授業」である（Figure2）。写真の歴史や写真の上手な撮り方について学んだ後、学内を回りながらipadで写真を撮影し、最後に一番印象に残った1枚の写真を発表するという活動を行った。第4・5回は「相撲の制作と遊びを通した国技の授業」である（Figure3）。日本古来の相撲の歴史や技などを学んだ後、段ボールや画用紙を使って等身大の力士を制作し、「トントン相撲」のルールに倣い、トーナメント形式でうちわを扇ぎながら相撲の取り組みを行うという活動を行った。第6回は「ぶんぶんごまの制作を通した昔あそびの授業」である（Figure4）。正月遊びの由来や昔あそびについて学んだ後、ぶんぶんごまの制作を行った。



Figure1 シャボン玉作りを通した化学の授業



Figure3 相撲の制作と遊びを通した国技の授業



Figure2 ipad の写真撮影を通した情報の授業

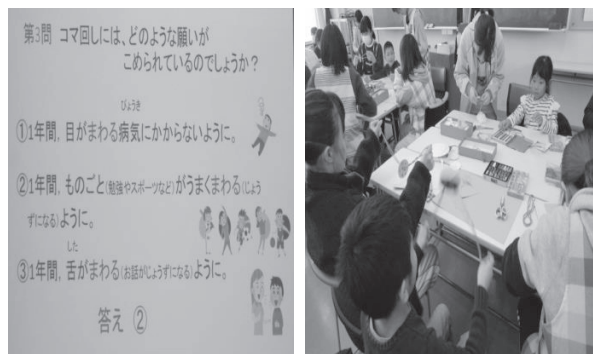


Figure4 ぶんぶんごまの制作を通した昔あそびの授業

3. 調査内容

1) 小学校教員用授業評価アンケートの内容

(1) 授業内容の充実度 (1 項目)

「交流授業の内容は、充実していましたか？」の 1 項目で尋ねた。「4. とても充実していた」(4 点) から「1. 全く充実していなかった」(1 点) までの 4 段階で評定を求め、同時にその番号を選んだ理由についても記述してもらった。

(2) 学生の保育・教育者としての態度 (1 項目)

「学生の態度は、保育・教育者としてふさわしかったですか？」の 1 項目で尋ねた。「4. とてもふさわしい」(4 点) から「1. 全くふさわしくない」(1 点) までの 4 段階で評定を求め、同時にその番号を選んだ理由についても記述してもらった。

(3) 児童の授業満足度 (1 項目)

「児童は、交流授業に対して満足しているように見えましたか？」の 1 項目で尋ねた。「4. とても満足していた」(4 点) から「1. 全く満足していなかった」(1 点) までの 4 段階で評定を求め、同時にその番号を選んだ理由についても記述してもらった。

(4) 教員の学び (1 項目)

「交流授業は、先生ご自身にとって、学びになりましたか？」の 1 項目で尋ねた。「4. とても学びになった」(4 点) から「1. 全く学びにならなかった」(1 点) までの 4 段階で評定を求め、同時にその番号を選んだ理由についても記述してもらった。

(5) 教員の職務負担感 (1 項目)

「交流授業は、先生ご自身にとって、職務上の負担に感じましたか？」の 1 項目で尋ねた。「4. とても負担に感じた」(4 点) から「1. 全く負担に感じなかった」(1 点) までの 4 段階で評定を求め、同時にその番号を選んだ理由についても記述してもらった。

(6) 授業の意見・感想 (自由記述)

授業への全体的な意見や感想として、「その他、本日の交流授業について、ご意見やご感想がありましたらお聞かせください。」と尋ね、その内容を記述してもらった。

2) 児童用授業評価アンケートの内容

(1) 児童の授業満足度尺度の原案 (4 項目)

児童の授業満足度を測定する尺度を作成するために、筆者が以下の 4 項目を独自に作成した。

第1項目は「授業への興味」であり、「大学生とのじゅぎょうは、おもしろかったですか?」と尋ねた(「とてもおもしろかった」(4点)から「まったくおもしろくなかった」(1点)までの4段階評定)。第2項目は、「大学生との交流の楽しさ」であり、「大学生のおねえさんとお話するのは、たのしかったですか?」と尋ねた(「とてもたのしかった」(4点)から「まったくたのしくなかった」(1点)までの4段階評定)。第3項目は、「授業への積極的態度」であり、「大学生とのじゅぎょうでは、いっしょうけんめいに、がんばりましたか?」と尋ねた(「とてもがんばった」(4点)から「まったくがんばらなかった」(1点)までの4段階評定)。第4項目は「今後の授業への期待度」であり、「2年生になってからも、大学生とじゅぎょうをしたいですか?」と尋ねた(「とてもしたい」(4点)から「まったくしたくない」(1点)の4段階評定)。

(2) 一番楽しかった出来事(自由記述)

1日を通して一番楽しかった出来事として、「1日大学生をして、いちばんたのしかったことは、

なんですか?」と尋ね、その内容を記述してもらった。

(3) 大学生の印象(自由記述)

大学生に対する印象として、「大学生のおねえさんは、どのような人でしたか?」と尋ね、その内容を記述してもらった。

Ⅲ. 結果

1. 児童の授業満足度尺度の作成

授業満足度に関する原案の4項目に対して因子分析(最尤法)を行ったところ、固有値の減少推移(2.26, 0.67, 0.57...)と解釈可能性から1因子構造が適切であると判断した。因子抽出数を1に設定し、再度同様の因子分析を行った。全ての項目の負荷量が.54以上と高い値であったことから、全項目を尺度に含めることにした。尺度の内的一貫性は $\alpha = .74$ であり、概ね高い値が示された。以上より、「児童の授業満足度尺度」(Table2)が作成された。

Table2 児童の授業満足度の因子構造(最尤法)

項 目	負荷量	h^2	M	SD
1. 2年生になってからも、大学生とじゅぎょうをしたいですか(今後の授業への期待度)	.73	.53	3.90	0.37
2. 大学生とのじゅぎょうは、おもしろかったですか(授業への興味)	.67	.46	3.90	0.34
3. 大学生とのじゅぎょうでは、いっしょうけんめいに、がんばりましたか(授業への積極的度)	.65	.43	3.83	0.40
4. 大学生のおねえさんとお話するのは、たのしかったですか(大学生との交流の楽しさ)	.54	.30	3.84	0.40
因子寄与率(%) 56.69%				

2. 全体の授業評価の分析

1) 小学校教員の授業評価

小学校教員全体のサンプル($N = 12$)を分析対象として、各項目の平均値および標準偏差を算出した。その結果、授業内容の充実度は $M=3.58$ ($SD=0.49$)、学生の保育・教育者としての態度は $M=3.50$ ($SD=0.50$)、児童の授業満足度は $M=4.00$ ($SD=0.00$)、教員の学びは $M=3.58$ ($SD=0.64$)、教員の職務負担感は $M=1.50$ ($SD=0.50$)であった(Table3, Figure5)。

2) 児童の授業評価

児童全体のサンプル($N = 135$)を分析対象と

した場合の児童の授業満足度尺度の平均値および標準偏差は、 $M=3.86$ ($SD=0.29$)であった。次に、性別と授業内容によって児童満足度尺度の得点に差があるか検討するために、二要因分散分析(性別×授業内容)を行った(Table4)。その結果、性別の主効果および性別と授業内容の交互作用は有意でなかったが、授業内容の主効果は有意であった($F(3, 127) = 3.02$)。

Leveneの等分散の検定の結果、有意差(5%水準)があり等分散が仮定できなかったため、ノンパラメトリック法のTamhaneのT2を用いて多重比較(5%水準)を行った。その結果、ぶんぶんご

まの授業に参加した児童（N=21）は、写真の授業に参加した児童（N=52）と相撲の授業に参加した児童（N=39）よりも、授業満足度が高かった。また、シャボン玉に参加した児童（N=23）は、写真

Table3 小学校教員の授業評価の基礎統計量 N=12

	授業内容の充実度	学生の保育・教育者としての態度	児童の授業満足度	教員の学び	教員の職務負担感
平均値	3.58	3.50	4.00	3.58	1.50
標準偏差	0.49	0.50	0.00	0.64	0.50

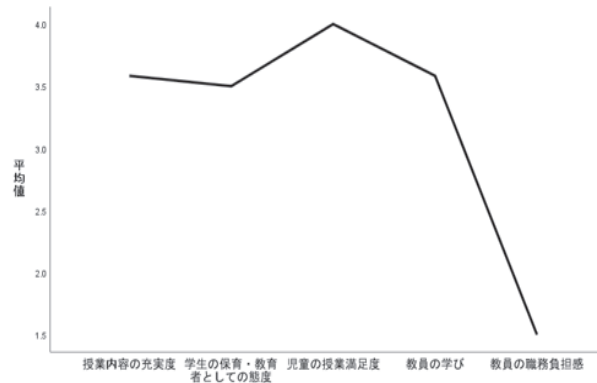


Figure5 小学校教員の授業評価の平均値

Table4 児童の授業満足度得点の2要因分散分析（性別×授業内容）

シャボン玉		写真		相撲		ぶんぶんごま		分散分析（F値）			
男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	授業内容	多重比較	性別	交互作用
N=135	(n=12)	(n=11)	(n=23)	(n=29)	(n=18)	(n=21)	(n=10)	(n=11)			
授業満足度									ぶんぶんごま>写真, 相撲	0.68 ^{n.s.}	0.59 ^{n.s.}
									シャボン玉>写真		

* $p < .05$

注1: () 内は標準偏差を示す。

注2: 多重比較は等分散が仮定できなかったため、ノンパラメトリック法のTamhaneのT2を用いた。

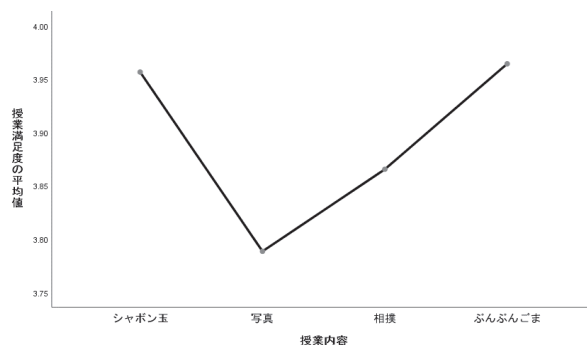


Figure6 授業内容ごとの児童の授業満足度の平均値

の授業に参加した児童よりも、授業満足度が高かった（Figure6 参照）。

3. 授業内容ごとの授業評価の分析

授業内容ごとの授業評価を、小学校教員と児童の評価に分けて検討する。小学校教員は、アンケートの自由記述の内容を中心に検証する。児童も同様に、アンケートの自由記述（楽しかった出来事、大学生の印象）の内容に着目して検証する。なお、児童の一番楽しかった出来事については、大きく「授業」と「授業以外」のカテゴリーに分けて結果を整理する。

1) シャボン玉作りを通した科学の授業

小学校教員5名における授業内容の充実度は、

平均4.0点であり、「手遊びやシャボン玉の不思議など、充実した内容でした。」などのポジティブな記述がみられた。学生の保育・教育者としての態度は、平均4.0点であり、「みんな明るく、挨拶もよくできていて、素晴らしい態度だと思います。」など学生の態度に対する好意的な記述がみられた。教員からみた児童の授業満足度は、平均4.0点であり、「自分たちの発表を多くの人に見てもらい、自信がついたと思います。」という成果発表の効果を示唆する記述がみられた。教員の学びは、平均4.0点であり、「私にとっても興味深い内容でした。クイズも楽しかったです。」という授業内容や授業方法に関する記述がみられた。教員の職務負担感は、平均1.0点であり、記述はみられなかった。授業

の意見・感想は、「学生の皆さんがよく子どもをみてくれるので、安心して過ごすことができました。」など学生の態度を称賛する記述がみられた。

児童 23 名における一番楽しかった出来事は、シャボン玉 (82.6%) の出現率が最も高く、次いで給食 (13.0%)、学校探検 (4.34%) であった。また、大学生の印象では、優しい (82.6%) の出現率が最も高く、次いでかわいい (13.0%)、楽しい・面白い (8.69%) であった。

以上の小学校教員および児童の授業評価は、Table5、Table6 に記載する。

2) ipad の写真撮影を通した情報の授業

小学校教員 2 名における授業内容の充実度は、平均 3.5 点であり、「子どもたちが楽しそうに取り組んでいました。ipad の活用というのも、今求められる力として良いのではないかと思います。」など情報教育の必要性に関する記述がみられた。学生の保育・教育者としての態度は、平均 3.0 点であり、「皆さんとても優しく接してくれていました。」など好意的な記述とともに、「お 1 人だけ、言葉遣いが丁寧でなく、気になりました。」という学生の不適切な態度を示唆する記述もみられた。教員からみた児童の授業満足度は、平均 4.0 点であり、「写真を撮ったり、遊んでもらったり、とても楽しかったようです。」などポジティブな記述がみられた。教員の学びは、平均 4.0 点であり、「子どもたちへの関わり方、説明の仕方など、学生さんたちの姿を見て、自分を客観的に振り返ることができました。」など指導に関する省察的な学びの記述がみられた。教員の職務負担感、平均 2.0 点であり、「学生さんが主体となって子どもたちを動かしてくれたので、安心して傍で見ておくことができました。」など負担感の少なさを示す記述がみられた。授業の意見・感想は、「小学校から通いやすい距離であるので、普段からもっと交流があって、軽い形で大学生と関われる機会があったらなと思います。」など、大学生と児童の交流の継続を希望する記述がみられた。

児童 52 名における一番楽しかった出来事は、遊び (34.6%) の出現率が最も高く、次いで給食 (26.9%)、写真 (17.3%) であった。また、大学生の印象では、優しい (88.4%) の出現率が最も高く、次いで面白い (17.3%)、かわいい (7.69%)

であった。

以上の小学校教員および児童の授業評価は、Table7、Table8 に記載する。

3) 相撲の制作と遊びを通した国技の授業

小学校教員 4 名における授業内容の満足度は、平均 3.0 点であり、「子どもたちが楽しめる内容を企画していただき、学生たちも熱心に子どもにかかわっていた。」などポジティブな記述とともに、「相撲の歴史や知識を問うクイズは 1 年生には難しかった。制作場面で子どもたちに明確な指示があるともっとよかった。」「時間に余裕がなかったのが残念でした。」など、授業の難易度や授業の進行に関する改善点が指摘された。学生の保育・教育者としての態度は、平均 3.0 点であり、「子どもへの愛情や一緒に楽しむという点では、大変相応しいと思う。」など好意的な記述とともに、「児童の手本になるような態度が子どもたちの前で出せると良い（座り方、話の聞き方など）。」「ルールを守らない時はきちんと指導することも大切だと思います。」など学生の不適切な態度や毅然とした態度を求める記述もみられた。教員からみた児童の授業満足度は、平均 4.0 点であり、「学校でも、交流に向けて期待をもたせる指導を入れて臨んだこともあるし、学生たちの明るく精一杯の対応もあって、子どもたちはずっと居たかった様子でした。」などポジティブな記述がみられた。教員の学びは、平均 3.2 点であり、「場が変わり、関わる人間が変わることで、子どもたちがいつもとは違った表情を見せていた。」「子どもたちの新たな面を見ることができた。」「今日の様子を見ていて、自分は少し手を出しすぎかな？と考えさせられました。今後は、見守る時間を増やしたいと思いました。」など、子ども理解の深まりや指導観の変容を示唆する記述がみられた。教員の負担感、平均 1.7 点であり、「一人ひとりに学生がついてくれたので、有り難かった。」など負担感の軽減を示唆する記述がみられたが、「細かな指導・助言は、担任として必要な場面があった。」「帰りの時間に制限があったため、時間に帰れるよう心配になってしまいました。」など、指導上の負担感や心理的負担感を意味する記述もみられた。授業の意見・感想は、「時間と活動内容をもう少し細かく把握し、当日を迎えられると流れもスムーズだったと思います。実

際に児童と交流する授業ですので、先生としての（大人としての）意識を高めて接して頂けたらと思います（かわいがるだけではなく、アドバイスしたり、手本となったり・・・）。」「バスが2便に分かれてしまったこともあるが、制作や遊びの時間にもう少しゆとりがあると良かったと思いました。」など、授業計画や活動時間、学生の保育・教育者としての態度、大学－小学校間のバスの運行、に関して改善点が指摘された。

児童 39 名における一番楽しかった出来事は、学校探検（43.5%）の出現率が最も高く、次いで相撲（30.7%）、遊び（20.5%）であった。また、大学生の印象では、優しい（82.0%）の出現率が最も高く、次いでかわいい（30.4%）であった。

以上の小学校教員および児童の授業評価は、Table9、Table10 に記載する。

4）ぶんぶんごまの制作を通した昔あそびの授業

小学校教員 1 名における授業内容の充実度は、4.0 点であり、「生活科で勉強している昔あそびについて説明をしてくれたり、遊びの願いについて教えて頂けたので、子どもたちにとってよい機会になりました。」といった小学校での学習内容との連続性を示唆する記述がみられた。学生の保育・教育者としての態度は、4.0 点であり、「子どもの視線に合わせて話をしてくれていました。子ども

たちが喜んでいる時には、一緒に喜んでくれていたので、子どもも嬉しかったと思います。」といった学生の愛情溢れる態度を称賛する記述がみられた。教員からみた児童の授業満足度は、4.0 点であり、『「また、行きたい』『また、会って遊びたい』』と感想を言っていた子どもがとても多かったので、満足していると思います。」という記述がみられた。教員の学びは、4.0 点であり、「学生さんと子どもとのかかわり方や、どのような保育士さんになりたいか少し話せたのでよかったです。」といったように、学生との関わり合いや学生の姿から学びを得ていることが示唆された。教員の職務負担感は、1.0 点であり、「打ち合わせ等をして頂けたので、あまり負担になりませんでした。」という記述がみられた。授業の意見・感想は、「短大生が小学校にボランティアに来て頂けるような交流もあれば良いと感じました。」といった大学生と小学生の交流の継続を希望する記述がみられた。

児童 21 名における一番楽しかった出来事は、ぶんぶんごま（42.8%）と全部（42.8%）の出現率が最も高く、次いで給食（23.8%）、遊び（14.2%）であった。また、大学生の印象では、優しい（80.9%）の出現率が最も高く、次いで教え上手（28.5%）であった。

以上の小学校教員および児童の授業評価は、Table11、Table12 に記載する。

Table5 シャボン玉作りを通した科学の授業 N=5（校長1名、教頭1名、担任2名、養護教諭1名、学習支援員1名）

1. 授業内容の充実度：平均4.0点

【理由】

- ・手遊びやシャボン玉の不思議など、充実した内容でした。
- ・子どもたちのにこやかな顔、満足そうな表情からそう思いました。

2. 学生の保育・教育者としての態度：平均4.0点

【理由】

- ・みんな明るく、挨拶もよくできていて、素晴らしい態度だと思います。子どもが大好きだということがよく分かり、保育・教育者として相応しいと思います。
- ・手をつないで、よく面倒をみてくださいました。
- ・学生さんから話しかけてくれたり、いろいろなことを教えてくれたりして頂いている様子を感じました。

3. 児童の授業満足度：平均4.0点

【理由】

- ・自分たちの発表を多くの人に見てもらい、自信がついたと思います。

4. 教員の学び：平均4.0点

【理由】

- ・私にとっても興味深い内容でした。クイズも楽しかったです。

5. 教員の職務負担感：平均1.0点

【理由】

- ・記述なし

6. 授業の意見・感想

- ・学生の皆さんがよく子どもをみてくれるので、安心して過ごすことができました。
- ・お互いの心の触れあいが感じられ、見ている私も嬉しくなります。
- ・アルミ箔で輪を作り、石けん水をつけるとシャボン玉ができるということを初めて知りました。子どもたちは驚きがあり、楽しさがありということで、充実した時間を過ごすことができました。

Table6 シャボン玉作りを通した科学の授業 N=23

楽しかった出来事	度数（％）	大学生の印象	度数（％）
【授業】		優しい	19（82.6）
シャボン玉	19（82.6）	かわいい	3（13.0）
		楽しい・面白い	2（8.69）
【授業以外】		きれい	1（4.34）
給食	3（13.0）	おしゃれ	1（4.34）
学校探検	1（4.34）		

注：一人の対象者の記述には複数にカテゴライズされている場合がある。

Table7 ipadの写真撮影を通した情報の授業 N=2（担任2名）

1. 授業内容の充実度：平均3.5点

【理由】

- ・子どもたちが楽しそうに取り組んでいました。ipadの活用というのも、今求められる力として良いのではないかと思います。
- ・学校では取り組んでいない内容でしたので、子ども達も意欲的に参加できていました。

2. 学生の保育・教育者としての態度：平均3.0点

【理由】

- ・皆さんとても優しく接してくれていました。お1人だけ、言葉遣いが丁寧でなく、気になりました。
- ・慣れないながらも、子どもたちの目線でしゃがんだり、優しい言葉遣いをしていて、がんばっているなど感じました。

3. 児童の授業満足度：平均4.0点

【理由】

- ・写真を撮ったり、遊んでもらったり、とても楽しかったようです。学食のカレーも美味しかったと言っていました。
- ・とても生き生きとして、楽しそうにしている児童ばかりでした。大学生のお姉さんたちに優しく一対一で接してもらえて嬉しかったようです。

4. 教員の学び：平均4.0点

【理由】

- ・子どもたちへの関わり方，説明の仕方など，学生さんたちの姿を見て，自分を客観的に振り返ることができました。
- ・普段見られない子どもの様子も見られ，よかったです。

5. 教員の職務負担感：平均2.0点

【理由】

- ・学生さんが主体となって子どもたちを動かしてくれたので，安心して傍で見ることができました。
- ・S短大の方々にお任せで，安心して参加することができました。

6. 授業の意見・感想

- ・（小学校から）通いやすい距離であるので，普段からもっと交流があつて，軽い形で大学生と関われる機会があつたらなと思います。
- ・お迎えからお世話になり，ありがとうございました。

注：下線部は，授業の改善点や今後の課題に関する指摘事項を示す。

Table8 ipadの写真撮影を通した情報の授業 N=52

楽しかった出来事	度数（％）	大学生の印象	度数（％）
【授業】		優しい	46（88.4）
写真	9（17.3）	面白い	9（17.3）
		かわいい	4（7.69）
【授業以外】		親切	1（1.92）
遊び	18（34.6）	賢い	1（1.92）
給食	14（26.9）	話をしてくれる	1（1.92）
学校探検	7（13.4）		
大学生との交流	2（38.4）		
【授業・授業以外】			
全部	2（3.84）		

注1：一人の対象者の記述には複数にカテゴライズされている場合がある。

注2：「遊び」の内容として，8名が「はないちもんめ」，2名が「鬼ごっこ」を記述していた。

Table9 相撲の制作と遊びを通した国技の授業 N=4（教頭1名，担任2名，児童介助員1名）

1. 授業内容の充実度：平均3.0点

【理由】

- ・子どもたちが楽しめる内容を企画していただき，学生たちも熱心に子どもにかかわっていた。相撲の歴史や知識を問うクイズは1年生には難しかった。制作場面で子どもたちに明確な指示があるととてもよかった。
- ・時間が押してしまい，制作が不十分なまま，（相撲の）トーナメント戦になってしまった。
- ・楽しい活動を準備していただいたのですが，時間に余裕がなかったのが残念でした。
- ・お相撲さんを作ったり対戦するだけでなく，歴史や技なども教えてもらえたのでより興味を持って授業に臨めたと思います。

2. 学生の保育・教育者としての態度：平均3.0点

【理由】

- ・子どもへの愛情や一緒に楽しむという点では，大変相応しいと思う。子どもを迷わせない指示や子どもの課題に応じた支援など，学生さんたちの今後の成長に期待する。
- ・子どもが好きな様子は，とても伝わってきた。児童の手本になるような態度が子どもたちの前で出せると良い（座り方，話の聞き方など）。
- ・子どもたちへの言葉かけなどとても優しく，子どもが好きなんだなという感じを受けました。今日1日だけなので難しいと思いますが，ルールを守らない時はきちんと指導することも大切かと思ひます。

3. 児童の授業満足度：平均4.0点

【理由】

・学校でも、交流に向けて期待をもたせる指導を入れて臨んだこともあるし、学生たちの明るく精一杯の対応もあって、子どもたちはずっと居たかった様子でした。

・普段、人見知りをする事がありますが、今日は最初から安心して居る様子が見られました。いつもとは違った表情を見ることができました。

4. 教員の学び：平均3.2点

【理由】

・場が変わり、関わる人間が変わることで、子どもたちがいつもとは違った表情を見せていた。数時間の交流でここまで関係づくりができたのは、学生や職員の方々の対応のおかげだと思う。

・子どもたちの新たな面を見ることができた。

・子どもたちの別の面（学校では見られない面）を見ることができました。

・今日の様子を見ていて、自分は少し手を出しすぎかな？と考えさせられました。今後は、見守る時間を増やしたいと思いました。

5. 教員の職務負担感：平均1.7点

【理由】

・担任は事前指導や事前打ち合わせが必要だったが、当日は大学側主体で進行して頂いたので、特に負担とは感じなかった。

・一人ひとりに学生がついてくれたので、有り難かった。細かな指導・助言は、担任として必要な場面があった。

・こちらの都合で、帰りの時間に制限があったため、時間に帰れるよう心配になってしまいました。1人に1人～2人の学生がついて下さり、とてもありがたかったです。

6. 授業の意見・感想

・時間と活動内容をもう少し細かく把握し、当日を迎えられると流れもスムーズだったと思います。実際に児童と交流する授業ですので、先生としての（大人としての）意識を高めて接して頂けたらと思います（かわいいだけでなく、アドバイスしたり、手本となったり…）。

・バスが2便に分かれてしまったこともあるが、制作や遊びの時間にもう少しゆとりがあると良かったと思いました。

・昨年度と違った内容で工夫された活動を準備していただき、とても有り難く感じました。もう少し時間にゆとりをもってできると、更によかったと思います。子どもたちの心に残る楽しい交流をしていただき、ありがとうございました。

注：下線部は、授業の改善点や今後の課題に関する指摘事項を示す。

Table10 相撲の制作と遊びを通した国技の授業 N=39

楽しかった出来事	度数（％）	大学生の印象	度数（％）
【授業】		優しい	32（82.0）
相撲	12（30.7）	かわいい	12（30.7）
		面白い	1（2.56）
【授業以外】		きれい	1（2.56）
学校探検	17（43.5）	話をしてくれる	1（2.56）
遊び	8（20.5）		
給食	2（5.12）		

注1：一人の対象者の記述には複数にカテゴライズされている場合がある。

注2：「遊び」の内容として、6名が「はないちもんめ」、2名が「ブランコ」を記述していた。

Table10 ぶんぶんごまの制作を通した昔あそびの授業 $N=1$ (担任1名)

1. 授業内容の充実度：4.0点

【理由】

・生活科で勉強している昔あそびについて説明をしてくれたり、遊びの願いについて教えて頂けたので、子どもたちにとってよい機会になりました。

2. 学生の保育・教育者としての態度：4.0点

【理由】

・子どもの視線に合わせて話をしてくれていました。子どもたちが喜んでいる時には、一緒に喜んでくれていたの、子どもも嬉しかったと思います。

3. 児童の授業満足度：4.0点

【理由】

・「また、行きたい」「また、会って遊びたい」と感想を言っていた子どもがとて多かったので、満足していると思います。

4. 教員の学び：4.0点

【理由】

・学生さんと子どもとのかかわり方や、どのような保育士さんになりたいか少し話せたのでよかったです。

5. 教員の職務負担感：1.0点

【理由】

・打ち合わせ等をして頂けたので、あまり負担になりませんでした。

6. 授業の意見・感想

・短大生が小学校にボランティアに来て頂けるような交流もあれば良いと感じました。

注：下線部は、授業の改善点や今後の課題に関する指摘事項を示す。

Table11 ぶんぶんごまの制作を通した昔あそびの授業 $N=21$

楽しかった出来事	度数 (%)	大学生の印象	度数 (%)
【授業】		優しい	17 (80.9)
ぶんぶんごま	9 (42.8)	教え上手	6 (28.5)
		かわいい	1 (4.76)
【授業以外】		きれい	1 (4.76)
給食	5 (23.8)	たくさん遊んでくれる	1 (4.76)
遊び	3 (14.2)		
学校探検	1 (4.76)		
【授業・授業以外】			
全部	9 (42.8)		

注1：一人の対象者の記述には複数にカテゴライズされている場合がある。

注2：「遊び」の内容として、1名が「鬼ごっこ」、1名が「ブランコ」、1名が「サッカー」を記述していた。

IV. まとめと考察

本研究の目的は、保育者養成校における小学校との地域連携授業に焦点化し、小学校教員と児童の授業評価アンケートの分析を通して、地域連携授業の成果と今後の課題を検討することであった。まず児童の授業満足度を測定するために、原案の項目に対して因子分析を行った結果、授業への興味、大学生との交流の楽しさ、授業への積極的態度、今後の授業への期待度、の1因子4項目から構成される「児童の授業満足度尺度」が作成された。1因子の単純構造が確認された理由は、尺度項目の平均値が全体的に高かったためと考えられる。また尺度の信頼性については、 $\alpha = .73$ であり、概ね高い内的一貫性が得られた。

次に全体の授業評価の分析を、小学校教員と児童の授業評価に分けて行った。小学校教員の授業評価の4項目（授業内容の充実度、学生の保育・教育者としての態度、児童の授業満足度、教員の学び）の平均値は、4件法の中央値を超えていた（Table3 参照）。特に児童の授業満足度は、全ての対象者が「4」を評定しており、極めて高い値が示された。また、教員の負担感の平均値は、4件法の中央値より低かった（Table3 参照）。これらの結果より、①教員は地域連携授業の教育的意義を強く感じていること、②教員は地域連携授業の負担感をあまり感じていないこと、③地域連携授業は教員自身の学びにも還元されること、の3点が示唆された。

一方、児童の授業満足度の平均値は、全ての授業内容で4件法の中央値を超えており（Table4 参照）、児童の多くが授業に満足していることが示唆された。特に満足度が高かった授業内容は、「ぶんぶんごまの制作を通した昔あそびの授業」と「シャボン玉作りを通した科学の授業」であった（Figure6 参照）。反対に、満足度が相対的に低かった授業は、「ipadの写真撮影を通した情報の授業」と「相撲の制作と遊びを通した国技の授業」であった（Figure6 参照）。実際、児童が「一番楽しかった出来事」として挙げた授業内容の出現頻度は、多い順に、シャボン玉（82.6%）、ぶんぶんごま（42.8%）、相撲（30.7%）、ipad（17.3%）であり（Table6, 8, 10, 11 参照）、授業満足度の得点傾向と近似していた。

授業内容ごとに授業満足度に差が認められた理

由に関して、教員の授業評価の自由記述を基に、考察を深めていきたい。第一に、シャボン玉の授業満足度が高かった理由として、科学的な遊びが児童の興味や好奇心を喚起した可能性が考えられる。教員の授業への意見や感想として、「子どもたちは驚きがあり、楽しさがありということで、充実した時間を過ごすことができました。」（Table5 参照）という記述があるように、身近な材料でシャボン玉を作るという新規性が、児童の楽しさや驚きなどのポジティブ感情を喚起した可能性が考えられる。また、教員からみた児童の授業満足度として、「自分たちの発表を多くの人に見てもらい、自信がついたと思います。」（Table5 参照）という記述があり、班ごとにシャボン玉の上手な飛ばし方を発表するという機会を設けたことも、一因として考えられる。第二に、ぶんぶんごまの授業満足度が高かった理由として、昔あそびというテーマが、小学校の授業内容と密接に関連していたためと考えられる。教員の授業内容の充実度として、「生活科で勉強している昔あそびについて説明をしてくれたり、遊びの願いについて教えて頂けたので、子どもたちにとってよい機会になりました。」（Table10 参照）という記述があるように、児童の既存の知識や情報（先行オーガナイザー）が授業内容の興味を高めた可能性が考えられる。また、学生の保育・教育者としての態度に、「子どもの視線に合わせて話をしてくれていました。子どもたちが喜んでいる時には、一緒に喜んでくれていたので、子どもも嬉しかったと思います。」（Table10 参照）という記述があるように、ぶんぶんごまを上手に回せたことを心から喜んでくれる大学生の存在が、児童の授業満足度を高めたのかもしれない。第三に、写真の授業満足度が比較的低かった理由として、ipadという情報機器の扱い方に難しさを感じたり、情報学習に馴染みがない児童が多かったためと考えられる。教員の授業内容の充実度として、「学校では取り組んでいない内容でした・・・（中略）。」（Table7 参照）という記述があるように、児童の中には情報機器の扱い方や写真撮影に難しさを感じ、授業内容に興味を持てなかった者も存在していた可能性が考えられる。第四に、相撲の授業満足度が比較的に低かった理由として、授業担当者や学生の説明不足や指示の不明確さが要因として考えられる。教員の自由記述に、「制作

場面で子どもたちに明確な指示があるともっとよかった。」「子どもを迷わせない指示や子どもの課題に応じた支援など、学生さんたちの今後の成長に期待する。」「制作や遊びの時間にももう少しゆとりがあると良かったと思いました。」(Table7 参照)という意見が多く挙げられたように、児童がいま何をすれば良いのか戸惑う場面が、活動全体を通して多かったと推察される。また、力士を制作する活動に時間が掛かり、相撲の取り組みのトーナメント戦を行う時間が少なかったことも一因と考えられる。教員の自由記述に、「時間が押してしまい、制作が不十分なまま、(相撲の)トーナメント戦になってしまった。」「楽しい活動を準備していただいたのですが、時間に余裕がなかったのが残念でした。」(Table9 参照)というコメントがみられるように、活動に専念する十分な時間を確保できず、その結果として、児童の授業満足度が低下した可能性が考えられる。

以上、児童の授業満足度と教員の自由記述を併せて考察した結果、地域連携授業の有効な実施方法として、次の具体的な示唆が得られた。第一は、児童の興味・関心を喚起する新規性のある授業内容や小学校での学習内容と関連した授業内容を設定することである。第二は、授業の取り組みや成果を発表できる機会を設け、更にその発表した成果が周囲から承認されるような親和的風土を大切にすることである。第三は、授業担当者や学生が児童に対して明確な指示を与え、課題達成に向けて導くことである。第四は、児童のアイデアや考えを尊重し、それらを実現するための十分な時間を確保することである。今後、地域連携授業の教育効果を向上させるために、これらの4つの観点を念頭に置きながら授業を展開することが重要と考える。

次に、大学生に対する小学校教員と児童の評価(他者評価)に着目して考察する。まず、教員からみた学生の保育・教育者としての態度は、子どもへの愛情溢れる親和的な態度を好意的に思う記述が多かったが、指導者としての自覚の欠如を課題に挙げる記述が目立った。例えば、写真の授業では、「お1人だけ、言葉遣いが丁寧でなく、気になりました。」(Table7 参照)という記述があった。また、相撲の授業では、「児童の手本になるような態度が子どもたちの前で出せると良い(座り方、話の聞

き方など)」「ルールを守らない時はきちんと指導することも大切かと思います。」(Table9 参照)という記述が見受けられた。授業担当者である筆者は、地域連携授業の心構えとして、学生たちに実習と同じく、緊張感を持って真剣に臨むように指導している。しかし、学生の中には緊張感が抜けてしまい、児童に対して友達のような感覚で関わっていた者や怠惰な姿勢で授業に臨んでいた者もいた可能性がある。今後は事前・事後指導の際に、保育・教育者として望ましい態度を問い直す学習機会を積極的に設けることが必要と考える。

また、児童からみた学生のイメージでは、全ての授業において、「優しい」の出現率が80%以上であり、極めて高い出現率であった。その他、「面白い」「楽しい」「かわいい」「教え上手」といったカテゴリーが出現した。この結果から、多くの児童は学生を優しく受容的な存在であると認識していたと言える。特筆すべき点は、第6回のぶんぶんごまの授業(最終回)のみ、「教え上手」という教育的指導に関するカテゴリーが出現したことである。学生は、ぶんぶんごまの制作過程や回し方において、これまでの授業経験を踏まえて、的確な指示やアドバイスを与えることができたものと推察できる。このような学生の指導技術の上達が、児童のぶんぶんごまの授業満足度の高さに繋がったのかもしれない。

地域連携授業は、教員自身の学びにも還元されることが、教員の自由記述の内容から明らかとなった。その学びは大きく、①子ども理解の深化、②指導レパトリの拡大、③省察(リフレクション)の促進、の3つに分けられる。例えば、子ども理解の深化を示す記述として、「子どもたちの新たな面を見ることができた。」「普段見られない子どもの様子も見られ、良かったです。」がみられた。また、指導レパトリの拡大を示す記述として、「アルミ箔で輪を作り、石けん水をつけるとシャボン玉ができるというのを初めて知りました。」「私にとっても興味深い内容でした。」がみられた。さらに、省察(リフレクション)の促進を示す記述として、「子どもたちへの関わり方、説明の仕方など、学生さんたちの姿を見て、自分を客観的に振り返ることができました。」「今日の様子を見ていて、自分は少し手を出しすぎかな?と考えさせられました。今後は、見守る時間を増やしたいと思いました。」

がみられた。以上より、地域連携授業は大学生や児童のみならず、小学校教員にとっても学びに繋がることが示唆された。

最後に、今後の地域連携授業の展望として、授業を契機に大学生と児童の交流を継続的に実施するということを提案したい。筆者が所属するS短期大学では、年間を通して多くの小学校と授業を実施しているものの、学生と児童の交流はその場限りで終始してしまう。したがって、学生がボランティアなどを通して小学校へ出向き、児童と継続的に関わることができる機会があると望ましいだろう。本研究の結果から、大学生の受け入れを希望している小学校教員も存在していることが示唆された。例えば、「(小学校から) 通いやすい距離であるので、普段からもっと交流があって、軽い形で大学生と関われる機会があったらと思います。」(Table7 参照)「短大生が小学校にボランティアに来て頂けるような交流もあれば良いと感じました。」(Table10 参照)という記述がみられた。今後は大学と小学校の協力体制を強化し、地域連携授業を契機として、学生と児童が継続的に学び合える機会を増やしていくことが大きな課題と考える。

引用文献

- 1) 文部科学省．平成 27 年度開かれた大学づくりに関する調査研究【調査報告書】．2016. Retrieved from: http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/chousa/_icsFiles/afieldfile/2016/11/22/1377544_001_1.pdf http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/daigaku/index.htm (2019 年 9 月 9 日)
- 2) 全国保育士養成協議会．学生の自己成長感を保証する実習指導のあり方ー平成 26 年度調査報告から．2015. Retrieved from: http://www.hoyokyo.or.jp/profile/senmon/research_report27.pdf (2019 年 9 月 9 日)
- 3) 湯地宏樹．地域連携事業に係る授業における学生の満足度と保育実践力．鳴門教育大学学校教育研究紀要．2015, 30, 85-94.
- 4) 木村直子・塩路昌子・佐々木晃・藤原伸彦・谷村千絵・浜崎隆司・田村隆宏・松崎美穂子．乳児への保育実践力を身につける授業の試案とその成果：大学内での赤ちゃんサロンでの取り組

みから．鳴門教育大学授業実践研究：学部の授業改善を目指して．2013, 12, 3-10.

- 5) 萩尾ミドリ・池田可奈子・椎山克己．保育者養成校における子育て支援活動の実際と学生への教育的効果．久留米信愛女学院短期大学研究紀要．2011, 34, 117-124.
- 6) 古屋祥子・田中謙．保育者の資質向上におけるアクティブラーニング型授業での「プレイルーム」マネジメントを通した保育実践力の育成．山梨県立大学人間福祉学部紀要．2018, 13, 47-60.
- 7) 龍祐吉・河野順子・小川内哲生．保育者効力感に及ぼす乳幼児との関わりと自我状態の透過性調整力の影響．日本教育心理学会総会発表論文集．2011, 53, 198.
- 8) 西岡育子．平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育 指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉．チャイルド本社．2018.
- 9) 金子智昭．保育者養成校における地域連携授業に関する実践的研究ー学生の省察が自己認識の変容に及ぼす影響ー．慶應義塾大学社会学研究紀要：人間と社会の探求．2019, 87 (印刷中).
- 10) 前掲 9) に同じ
- 11) 前掲 9) に同じ
- 12) 金子智昭．保育者養成校における地域連携授業に関する実践的研究ー保育者効力感の循環形成プロセスの検討ー．埼玉純真短期大学研究論文集．2018, 12, 45-54.

謝辞

本研究の調査にご協力を頂きました小学校教員ならびに児童の皆様方に、また本研究の遂行に多大なるご尽力を賜りました持田京子先生に対しまして、心より感謝を申し上げます。

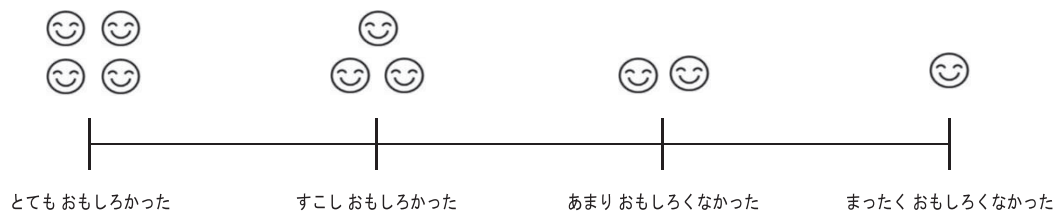
【児童用授業評価アンケート】

大学生とのじゅぎょうについてのアンケート

せいべつ：(おとこ おんな) クラス：() 組

1. つぎのしつもんにたいして、じぶんに、いちばんあてはまるとおもうものを、ひとつえらんで、○をかい
てください。

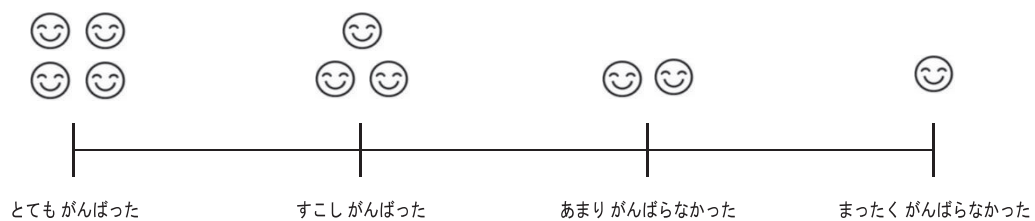
(1) 大学生とのじゅぎょうは、おもしろかったですか？



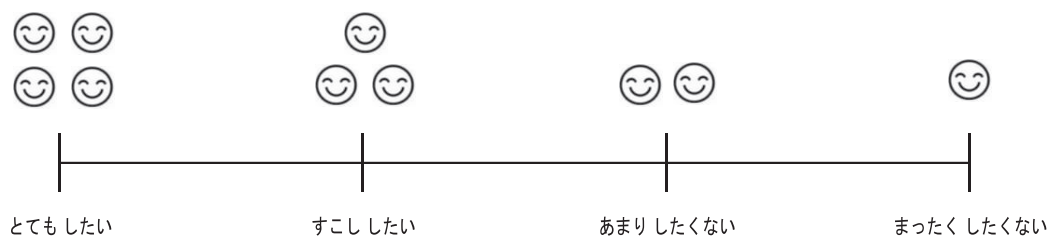
(2) 大学生のおねえさんとお話するのは、たのしかったですか？



(3) 大学生とのじゅぎょうでは、いっしょけんめいに、がんばりましたか？



(4) 2年生^{ねんせい}になってからも、大学生^{だいがくせい}とじゅぎょうをしたいですか？



2. つぎのしつもんにたいして、じぶんがおもったことを、かいてください。

(1) 1日^{いちにち}大学生^{だいがくせい}をして、いちばんたのしかったことは、なんですか？

(2) 大学生^{だいがくせい}のおねえさんは、どのような人^{ひと}でしたか？